

第2次小田原市環境基本計画の改訂に対する市民意見の募集結果について

1 意見募集の概要

政策等の題名	第2次小田原市環境基本計画の改訂
政策等の案の公表の日	平成29年5月15日（月）
意見提出期間	平成29年5月15日（月）から平成29年6月13日（火）まで（郵送の場合は、当日消印有効）
市民への周知方法	意見募集要項の配布（市内公共施設、ホームページ）

2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数（意見提出者数）	45件（3人）
インターネット	3人
ファクシミリ	0人
郵送	0人
直接持参	0人
無効な意見提出	0人

3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

〈総括表〉

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、反映したもの	17
B	意見の趣旨が、既に反映されているもの	3
C	今後の検討のために参考とするもの	11
D	その他（質問など）	14

〈具体的な内容〉

(1) 環境基本計画の内容に関すること (15件)

	意見の内容 (要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	17ページ 意識調査が7年前の数字で全くあてにならない、東日本大震災などで市民の意識も大きく変化していると思われるので、ここで改定するに辺りもう一度調査を行うべきでは？	C	今回は計画期間内の中間的な見直しであり、基本目標や基本施策の変更を行わないため、全面改訂時等にしかるべき調査を実施したいと考えております。
2	19ページ 意識調査が7年前の数字で全くあてにならない、原子力発電所の停止などで企業の意識も大きく変化していると思われるので、ここで改定するに辺りもう一度調査を行うべきでは？	C	今回は計画期間内の中間的な見直しであり、基本目標や基本施策の変更を行わないため、全面改訂時等にしかるべき調査を実施したいと考えております。
3	26ページ 平成34年度の目標にすでに平成27年度の実績で達成しているものが見受けられるが、目標の見直しは行わないのか？	C	今回は計画期間内の中間的な見直しであり、基本目標や基本施策の変更を行わないため、全面改訂時等にしかるべき見直しを実施したいと考えております。
4	5ページ 第5次小田原市総合計画後期基本計画の中で、第2次小田原市環境基本計画が主な個別計画として記載されていますが、図表1-1では並列で記載されています。この環境基本計画は総合計画の配下にある計画という認識でよいのでしょうか？	D	環境基本計画は、総合計画の基本計画を補完する個別計画として位置づけています。
5	5ページ 環境の分野の範囲が「小田原市の風土、景観、歴史、文化など、小田原らしさを形成するものまでを含めます。」とあるが、範囲が広すぎるのでは？ 小田原市美しく住み良い環境づくり基本条例の第6条の範囲において影響を及ぼす計画であるべき。風土、歴史、文化はその他で括るには大きすぎる。	D	小田原市の風土、景観、歴史、文化などは、自然環境の影響を受けて成り立ってきたものであるとの認識から、環境基本計画の範囲とし、環境行政を総合的かつ計画的に進めていきたいと考えております。
6	8ページ 図表2-3からは、田畑が減少して、都市的土地利用が増えていることは見えるが、山林は増加しており、単純に自然的土地利用から都市的土地利用への転換が進んでいるとは言えないのではないかと？図表2-1, 2-2は昭和30年からの推移だが、図表2-3は昭和60年からで圧倒的に情報不足。	A	適切な表現に文章を修正いたします。 また、図表については、可能な範囲で表記します。
7	8～9ページ 小田原市のみで温暖化が起こっているわけではなく、単純にこれだけの情報で地球温暖化の影響と断定は出来ないのでは？	B	小田原市のみで地球温暖化が起こるわけではありませんが、長期的傾向として気温が平年よりも高いといった状況をもとに地球温暖化の影響が本市にも現れていると考えました。

8	<p>10 ページ 大型哺乳類はイノシシが見られるのみということは、小田原の人工林において鹿や熊は絶滅したと言うことでしょうか？</p>	A	<p>適切な表現に修正いたします。 なお、小田原市域では、シカは目撃・捕獲数ともに増加傾向で、クマは目撃情報が年1～2件あるかないか程度で生息は確認されていません。</p>
9	<p>15 ページ 図表2-15で緑地は総面積で公園は一人あたりの面積で表記されてわかりづらい、前述の成果の中で都市公園を含めた緑地面積が増加しているとあるので、公園も総面積を出したほうがよい。</p>	C	<p>本指標は、「小田原市みどりの基本計画」（計画期間 平成8（1996）年～27（2016）年）によるもので、また、今回は計画期間内の中間的な見直しであり、進捗管理指標等の変更は行わないため、全面改訂時にしかるべき見直しを実施したいと考えております。 なお、都市公園の市民一人当たり面積の標準は、小田原市都市公園条例により10㎡/人と定めており、都市公園の整備については、この数値を目標として計画を進めています。</p>
10	<p>21 ページ 検索エンジンで「海の城下町」と検索しても、小田原を歌った歌謡曲1曲のみしか表示されない。これだけで海の城下町と言われるとは言えないのではないかと？</p>	D	<p>海に面した城下町として発展してきたことを踏まえ、「海の城下町」という表現を用いています。 今回は計画期間内の中間的な見直しであるため、全面改訂時に適した表現について検討いたします。</p>
11	<p>34 ページ 小田原市エネルギー計画において、平成34年度までに市内太陽光発電施設を115,427kW分設置すると定めており、当然太陽光+それ以外の再生可能エネルギーとなる基本計画の目指す方向はそれ以上の数値であってしかるべきだが、109,695.0kWとなっているため、数値を上方修正されたい。</p>	D	<p>小田原市エネルギー計画では、平成34（2022）年度の市内電力消費量を平成22（2010）年度の電力消費量から10%削減、市内の再生可能エネルギーによる発電量を市内電力消費量の10%とするという目標を掲げています。この目標が達成された平成34（2022）年度の再生可能エネルギーによる発電量は123,359千kWhと想定しており、太陽光発電のみで賄うと115,427kWの出力が必要となります。しかし、エネルギー源の分散化を目指し、太陽光発電よりも発電効率のよい再生可能エネルギー源の活用も想定した場合、出力は少なくて済むことから、目標値を109,695kWとして設定しているものです。</p>
12	<p>39 ページ 外来生物捕獲数の目指す方向が、実績値よりも少ないですが、実績値の捕獲を進めていけば外来生物数が約半分になるという認識なのではないかと？</p>	D	<p>「実績値の捕獲を進めていけば外来生物数が約半分になる」と見込んでいるものではなく、各取組や事業を進めることで、外来生物数が基準年度の水準になるよう目指していくものです。</p>
13	<p>41 ページ 緑地面積は実績が目標に達成できませんでしたが、今後どうするかを決めるべきでは？</p>	D	<p>本計画に記載の緑地面積の目標は、「小田原市みどりの基本計画」（計画期間 平成8（1996）年～27（2016）年）によるものとなっています。新たな計画（「おだわらみどりの創生プラン」目標年次：平成34（2022）年）が策定されたところですので、全面改訂時にしかるべき見直しを実施したいと考えております。</p>

14	45 ページ 狂犬病予防接種と畜犬登録はマナー啓発事業ではなく、狂犬病予防法に基づく事業では？	D	〇〇法に基づく〇〇事業という意味合いでの記載ではなく、総合計画に位置付けられている事業としてその名称で記載しています。
15	基本目標 1 参加と協働により、多様な主体が環境を守り育てるまちを目指します に関して (1) 環境学習事業に関して 小・中学校における体験を中心とした環境学習プログラムとは、今後どのような姿を目指しどのような内容を計画されているのでしょうか(平成 27 年度活動実施数実績 5 件に対し、34 年度の目標 50 件とあります)。	D	現在、小・中学校を対象に、間伐体験や間伐材を用いた木工体験を主な内容とした環境学習を学校のニーズに沿って実施しているほか、各校区の地域特性を考慮し、身近にある自然の観察を行っております。これにより、森林保全意識や、森林資源の地域内循環(間伐材利用など)、森・里・川・海の連環などへの関心を高めることを目指すとともに、将来的に環境改善活動の担い手になっていただけることにも期待し、継続・拡大して実施してまいりたいと考えております。

(2) 記載方法に関すること (19件)

	意見の内容(要旨)	区分	市の考え方(政策案との差異を含む。)
1	目次の番号振りが第 1、2、3、6、7 章は、1→(1)で、4、5 章は I→(1)となっているのは何か使い分けの意味があるのでしょうか？	D	5つの基本目標については、「I、II…」と表記して他の番号と区別しており、第 4 章と第 5 章は基本目標ごとに具体的な取組について記載しているため、それが分かりやすい表記にしています。 また、より分かりやすい番号のつけ方に修正します。
2	目次の中で、「～を目指します。」とあるものと「～を目指しますが、何か使い分けの意味があるのでしょうか？	D	表記を統一いたします。
3	平成〇〇(20xx)年と和暦と西暦を併記しているが、非常に読みづらいため、どちらかで統一して欲しい。第 1 章 1 の(1)の最初は「小田原市では、平成 7 年を「環境元年」と位置付け、」と西暦を併記していないため、これに準じて全て和暦で表記してほしい。また、併記するにしても、「平成 10(1998)年 3 月に策定し、～～」や「平成 18 年(2006)に計画を改訂し、～～」と平成〇〇(20xx)年や平成〇〇年(20xx)と表記が統一されていないため、これも統一されたい。 同様に、計画中の図表の中も、西暦、和暦、昭和を S 平成を H と略すなどが入り混じっているため統一して欲しい。	D	本計画の計画期間は平成 34(2022)年度までとしておりますが、計画期間中に新たな元号に代わることが想定されるため併記しています。また、併記漏れ等については追加・統一いたします。 なお、表中の表記(指標等)については、枠の関係で和暦表記のみにしてまいります。

4	5 ページ 涵養だったりかん養だったり表記にブレがあります、修正されたい。	A	「かん養」に統一いたします。
5	7 ページ 「本市の人口は～～」とあるところが「本市の口は～～」となっている修正されたい。	A	修正いたします。
6	7 ページ 図表 2-2 には表上部に(人)があるが、図表 2-1 には無い、追加して欲しい。	A	追加いたします。
7	8 ページ 図表 2-4 は年間降水量と気温の推移とあるが、このグラフからは一切降水量と気温の推移は読み取れない。全国平均との差しか記載されていない。	A	本図のタイトルを適切な表現に修正いたします。
8	10 ページ 図表 2-7 でその他のみがパーセント表示となっているのでヘクター表記にしてください。	A	パーセントとヘクターを併記するとともに、数値を更新いたします。
9	15 ページ 図表 2-14 で平成 26 年度のみ、h a が半角のため修正されたい。	A	修正いたします。
10	20 ページ 「持続可能な環境共生都市 小田原」とあるが、計画中で「持続可能な環境共生都市小田原」と都市と小田原の間が開いていないものもある。どちらが正しいのか？	D	タイトル部分のみ「持続可能な環境共生都市 小田原」と表記し、本文中はスペースなしで表記しています。
11	20 ページ 「小田原は首都圏にありながら、山、川、海、水田や畑などの農地、里山、～～」と書かれた後に「海、山、川、田畑、里山など様々な環境側面という～～」となり、「森・里・川・海オールインワンのエコシティ・小田原」と山、川、海、水田、畑、森、里などが順番も中身もバラバラで表示されていて気持ちが悪い、統一的な記載にして欲しい。	D	事業名や文脈を考慮してそれぞれの記載をしています。なお、同意義の箇所は同一の表現に修正いたします。
12	34 ページ 表内「目ざす方向」とあるが、32 ページでは「目指す方向」となっているため統一されたい。	A	表記を統一いたします。
13	36 ページ 24 ページと 5 R の説明の修正等が異なっているため統一したほうがよい。	A	統一いたします。
14	42 ページ 小田原市地域耕作放棄地対策協議会」と閉じ括弧が 1 つ多いので修正されたい。	A	修正いたします。
15	43 ページ 都市公園面積、都市公園等面積共に市民一人当たりのが抜けているのではないかと？	A	「(市民一人当たり面積)」の記載をします。
16	44 ページ 「小田原市は身近な河川～～再生を進めます。」の左のインテンドがおかしいので、修正されたい。	A	レイアウトの見直しを行い、見やすいように修正いたします。

	49ページ 「農業用水路への～～適切に処理します。」の左のインテンドがおかしいので、修正されたい。 50ページ 「道路の舗装面を適正に管理し、車両通行に伴う騒音や振動発生を抑制します。」の左のインテンドがおかしいので、修正されたい。		
17	55ページ 「生息地の保全管理活動やそ、のための啓発を行います。」と句点の位置がおかしいため修正されたい。	A	修正いたします。
18	72ページ PDCAサイクルの図ではPlanだが、右ではPLANと表記がブレているため統一したほうがよい。	A	統一いたします。
19	取り組み、取組み、取組の使い方を全体的に見直したほうがよい。	A	名詞を「取組」に統一いたします。

(3) その他 (11件)

	意見の内容 (要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	環境整備のひとつとして、電柱の埋設化を積極的に今以上に推進する事が必要と思います。新しい工法を取り入れて安いコストで推進してほしい。電柱がないだけでも町の雰囲気随分変わります。	C	今後の政策の参考とするため、所管部署に共有させていただきます。
2	低炭素社会の構築も温暖化防止に必要ですので、自分ができることから始めています。車の暖・冷房、特に冷房は極力抑え、30℃以上の時のみ使用すること。ちなみに、ハイブリッド車は一代目から使用しています。	C	今後の政策の参考とするため、所管部署に共有させていただきます。
3	野外でのごみの焼却の禁止も十分市民に伝わるように周知徹底が必要ではないですか。特に、下曽我地区は農家が多いので剪定した枝・木の処理方法(埋設など)の検討が必要と思います。	C	今後の政策の参考とするため、所管部署に共有させていただきます。 なお、剪定枝等については、燃せるごみとして分別処理していただくか、環境事業センターへの持ち込みをお願いしています。
4	下曽我地区は下水道ができていないので浄化槽中心ですが、浄化槽の掃除代も以前よりずいぶん値上がりしています。これでは下水道代とそんなに変わらないのではと思います。下曽我地区にも、是非下水道の推進を節に望みます(税金は同じように納めていますので)。	C	今後の政策の参考とするため、所管部署に共有させていただきます。
5	37ページ 生ごみ堆肥化推進事業に関して、生ごみ堆肥化実践世帯数8000件(平成30年度)の目標達成と市民の環境意識啓発のため、緑化事業や学	C	緑化事業をはじめとする各種イベントへの参加や、小学校でのごみに関する授業などの機会を捉え、生ごみ堆肥化推進事業

	校行事などとの連携をもっと広げたらよいのではと考えます。小田原フラワーガーデンや小学校のイベントなどでの生ごみ堆肥化事業の普及活動、フラワーガーデンやまちなか公園での生ごみ堆肥を使った花壇の普及活動などを通し、堆肥化実践世帯のすそ野をもっと広げる、市民ガーデナーにもっと興味をもっていただくことにつながるのではと考えます。		のPRを行っていますが、今後も様々な機会を捉えて、普及活動を行っていきます。
6	37ページ 生ごみ堆肥化推進事業に関して、生ごみ堆肥化を実践されているか(希望者)に、“生きごみ小田原プロジェクト”のステッカーを配布されて、普及を図ってはいかがでしょうか。	C	今後の施策の一例として参考にさせていただきます。
7	37ページ 生ごみ堆肥化推進事業に関して、事業系の生ごみについては、今後どのような取り組みを検討されているのでしょうか?	D	事業者から排出される生ごみについては、その削減と資源化に向けた啓発活動を検討していきます。
8	40ページ 自然観察会開催事業に関して、参加者を増やすため、自然観察会開催案内を、広報に加えおだわら環境メール、小田原市のSNS、小田原環境志民ネットワークのSNSなどでも発信していただけないでしょうか。広く情報発信されることで、自然観察指導員資格などを持っていないが活用できていないかたへの興味喚起にもつながるのではと考えます。	B	既に自然観察会開催事業については、広報小田原、市ホームページ、環境メールニュースといった方法で周知を図っているところですが、より広く参加者を募る方法を検討してまいります。
9	43ページ まちなか緑化支援事業に関して、核家族や高齢化などによる地域の緑の担い手不足の懸念に対して、市民ガーデナーを公募したらいかがでしょうか。現在の担い手のかたと一緒に、自宅庭のみでなく身近な公園や駅前広場などでも草花を育ててみようと思っていられるガーデナーさん、きっといらっしやと思います。	C	今後の政策の参考とするため、所管部署に共有させていただきます。
10	1ページ 「平成19(2007)年6月に「小田原市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、温室効果ガスの削減に取り組んできました」部にPDFのゴミが存在するので取り除かれない。 12ページ 「ダイオキシン類の測定は、平成11年施行のダイオキシン類対策特別措置法に基づき、平成12年度から測定が開始されました。」部にPDFのゴミが存在するので取り除かれない。	A	対応いたします。

11	<p>37ページ ごみ減量意識啓発事業に関して、市民(大人)のさらなる環境意識啓発のひとつとして、ごみ処理や資源リサイクルの現場を見学する機会を(自治会単位などで)設けてははいかがでしょうか。</p>	B	<p>現在、小田原市環境事業センターでは、清掃工場での焼却処理やリサイクルセンターでの資源物の中間処理について施設見学を実施しています。</p>
----	--	---	--

以上